

前橋市のしきしまオープンガーデンを事例とした住民評価と継続性

前橋市都市計画課 正会員 ○塚田 伸也 成蹊大学 非会員 塚田 和也
前橋工科大学 正会員 森田 哲夫 前橋工科大学 非会員 湯沢 昭

1. はじめに

多様な緑の効用を感じながら暮らしていくことは、人口減少・高齢化の進展や、環境に優しい生活環境を営む上で有効なツールとして捉えることができよう。この実現のためには、地域の特性やニーズに応じた緑の機能を的確に捉え、行政と住民がお互いに連携して取り組む緑化施策も必要である。

緑化は、公共が主体となっていく公共施設緑化と住民や民間団体が主体となっていく民有地緑化の2つに大別できる。中でも、民有地緑化の1つとして、まちづくりの観点から大きな効果が期待されているのがオープンガーデンである。オープンガーデンは、個人の庭を一般の人に開放し楽しんでもらう活動であり、わが国では1990年代後半から展開されてきた。他の人に庭を見せる庭主の楽しみと、庭を見る来訪者の楽しみにより、花を媒介とした交流やコミュニティ形成が醸成できるなどの効果を期待できる活動である。

2. 研究の目的

オープンガーデンについては、活動実態や継続性において、いくつかの課題が示されているものの、課題についてより検討を深めた研究は少ない。オープンガーデンの課題において、継続性のソフト面の課題である「活動のきっかけや形態」「参加者を増やすこと」「認知度を高める」は、今後の活動に与える影響が特に重要と考えるがこれに着目した研究があまり見られない。

このため、本研究は上記の3つの主要な課題について、前橋市のオープンガーデンを事例に、行政やオープンガーデン主催者による取り組みの状況、近隣住民のオープンガーデン活動への認知を把握することによって、「継続性への課題」の改善に向けて基礎的な知見を得ることを研究の目的とした。

3. 前橋市オープンガーデンの取り組み

本研究では、10年間継続して取り組まれてきた前橋市敷島地区で行われているオープンガーデン（以下、しきしまOGと称す）を事例とした。はじめに、「しきしまOG」の活動実態と特性を探るため、継続的にオープンガーデンの業務に携わった行政担当者へ活動に関する資料の提供を依頼、インタビュー調査を行い、実態把握を行った。前橋市では「しきしまOG」をはじめ、市域西側に「清里地区」、市域北側に「宮城地区」、市域南側に「下川淵地区」においてオープンガーデンが行われている。

中でも市街地中央部で10年間継続的に行われてきた、オープンガーデンが「しきしまOG」である。「しきしまOG」の起源は、群馬県において全国都市緑化ぐんまフェアが2008年3月に開催することになったことにはじまる。緑化フェアのメイン会場に敷島公園が選定され、隣接する敷島地区の住民が主体的に取り組んだオープンガーデンが「しきしまOGフェスティバル」である。前橋市は、都市緑化フェアの開催に合わせて、住民参加による花と緑のまちづくりを推進するためにオープンガーデンが企画された。

はじめに、前橋市は事業を推進する基盤づくりを図るため、2006年3月に、元NHKキャスターである須磨佳津江氏を講師に招き講演会を実施した(参加者113名)。また同年7月より、オープンガーデンの実践にむけた取り組みとしてガーデニング講座を実施され、同年8月に敷島町公園の花壇づくりが実施された。敷島町公園は敷島町にある身近な街区公園である。行政は地区の街区公園を花壇づくり実技の場として提供して施設環境の充実を図りたいという意向と、参加者は自らの活動を地区住民に広く認知を高めたいという意向の双方のメリットが一致して取り組みを行った。

キーワード オープンガーデン, しきしま, 住民評価, 継続性

連絡先 〒371-0016 前橋市城東町4-12-7 TEL: 090-2916-2331 E-mail: shinyaay@ezweb.ne.jp

また、ガーデニング講座は、1971年に設立され歴史をもつ市民活動組織「まちを緑にする会」の緑化啓発事業で行われ、「種まき教室」や「挿し木教室」が複数回開催されることで、花愛好者の発掘する機会が設けられた。2007年4月に、「深谷花ふえすた」を視察先として、はじめてのオープンガーデン視察研修会が開催され（参加者18名）、同年6月にオープンガーデン作庭教室として敷島町公園においてオープンガーデンの手入れやジェイドガーデンの植え込み教室が開催された（参加者19名）。

以後、2008年の緑化フェアの開催まで（約1年間）オープンガーデン実践教室が15回、オープンガーデン作庭教室が3回と概ね1~2回/月のペースでオープンガーデン実施に向けた技術養成（人材育成）が図られた。これらの研修により、庭を中心とした計画づくりから、オープンガーデンマップや看板の作成など、ソフトも含む発展的な内容に展開し、概ね20名程度の固定的な花愛好者の参加が得られた。2008年3月29~30日、「全国都市緑化ぐんまフェア」の開催と合わせ初回の「しきしまOGフェスティバル」は、18軒の参加による「敷島公園花仲間」が組織されて会員個人の庭が開放された。緑化フェア以後も「しきしまOGフェスティバル」は、敷島公園のばら園まつりの実行期間中に毎年継続して実施された。なお、2019年度は、記念すべき10回目の「しきしまオープンガーデンフェスティバル」の開催となり、ばら園まつりの実行期間中の2日間に、19軒の参加により自慢の庭が開放された。

10年間継続した「しきしまOG」の活動が継続した理由について行政担当者は、市民に対する公演会やオープンガーデン説明会など事業に対する市民啓発が興味に、ガーデニング講座や敷島町公園の花壇の手入れなどが興味から花愛好者の集まりや花愛好活動に、オープンガーデン視察研修やオープンガーデン実践教室の実施が花愛好活動からオープンガーデン活動に繋がり、定期的な視察研修で得られた発見をオープンガーデンの実践に活かしていくというPDCAサイクルによる継続的な評価を加えた取り組みが重要であったと評価していた。中でも、「しきしまOG」の取り組みは、視察研修会や技術養成が活動のきっかけや参加者を増やしたこと、地区住民の身近な街区公園を実技の場として活用したことが周辺住民の認知度を高める上で効果的であったと評価していた。

4. 近隣住民の評価

地区住民の身近な街区公園を実技の場として活用し、10年間継続してオープンガーデンを実施してきた「しきしまOG」に対する住民の評価を探るため、2016年8月18日に、住民アンケート調査を実施した（472票：回収率26.2%）。調査地域は、オープンガーデンが実施されている敷島公園周辺6箇町とした（敷島町を中心として約2.5km圏内）。アンケート調査の結果、「しきしまOG」の活動を「知っている」と答えた回答者は55.5%であり、「知らない」と答えた回答者は44.5%であった。

次からの設問については、「知っている」と答えた262人の回答者に答えてもらった。まず、「OGを訪問したこと、見かけたことがありますか」という設問について、「訪問した」と答えた回答者は33.2%であった。次に、「OG活動により、敷島公園周辺地区はどのような変化がすると思いますか」という設問について5つの選択肢から複数選択で答えてもらった。結果、「地区の景観が向上すると思う(137)」が最も多く、オープンガーデン活動によって地区の景観が向上することに、近隣住民が最も期待している実態が窺われ、「地区の緑や花が増えると思う(124)」、「地域の緑や愛着が高まると思う(84)」、「コミュニティ活動が活発になると思う(64)」が続いた。なお、「オープンガーデン活動は、地域のまちづくりに貢献していると思いますか」について伺った結果、「思う」と答えた回答者は78.6%であった。

以上から、「しきしまOG」は、単なる愛好団体の限定的な活動でなく、敷島公園の周辺地区において半数以上の住民に活動が認知され、かつ認知する住民の約8割が「活動を地域のまちづくりに貢献する」と肯定的に捉えていた。また、「地域のまちづくり」の中で「地区の景観が向上する」ことに最も期待が寄せている状況も窺われた。この結果から近隣住民の活動への認知と地域のまちづくりへの期待が「しきしまOG」が継続できた要因の1つではないか考えた。